



Dai 1 NAIKA News

平成 30 年 8 月 31 日

三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報紙【第 23 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

三重大学病院医療連携制度へのお願い



病院長
伊藤 正明

先生方におかれましては、連携をはじめとする三重大学病院の診療活動にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。当院は、今年はじめ、外構駐車場整備を終了し、10年にわたる再開発を終えることができました。長い間工事などで大変ご迷惑をおかけして参りましたが、今後は新しい施設、設備をより有効に活用して、三重県の医療の向上に努めて参りたいと思っています。再開終了を機に

三重大学病院のホームページを刷新いたしました。今回のHPは、スマートフォンで見て頂いても分かりやすい様に作成いたしており、一度ご覧いただければと思います。

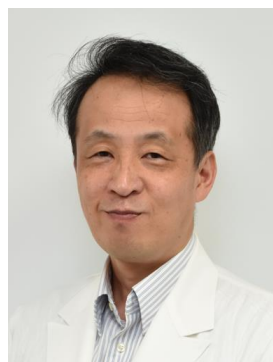
先生方とは、病診連携、病病連携をさらに推進させて頂き、より高度急性期、急性期に対応できる大学病院へと発展いたしたいと存じます。外来診療では、ほぼ安定された患者さんを、地域で活動されている先生方にご紹介し、病状などに変化があった際には再度ご紹介いただけるよう、紹介ならびに逆紹介を進めて参ります。また、先生方より患者さんをご紹介いただくにあたり、FAXに加えまして、とりあえず電話で新患予約をさせて頂くご案内も本格的に運用いたします。これらのご案内につきましてはHPをご覧ください。

先生方との医療連携を推進させるため、「医療連携登録制度」を開始し、まず津医師会ならびに久居医師会の先生方との連携活動から始めさせて頂いております。この制度は、地域の医療機関と三重大学病院とが医療連携協定を締結し、病病連携、病診連携をより緊密にし、地域医療の向上を図ることを目的に行うものです。患者さんには、生活に密着した良質な医療を行うために、お住まいや職場の近くに「かかりつけ医」をお持ちいただくことをお勧めしております。この医療連携機関を中心に、患者さんのご要望をお聞きした上で、「かかりつけ医」を選ぶお手伝いをさせて頂く所存です。スマートフォンで三重大学病院HPを開けて頂き、右上の「メニュー」をクリックし、「ご来院のみなさまへ」の項目の中の「患者さんへ」に入って頂きますと「地域の医療機関との連携」の項目があり、ここに現在ご登録されている先生方の医療機関が表示されます。現在 90 施設をこえる先生方にご登録を頂いております。今後、それぞれのクリニックなどのご紹介なども PDF で表示できるようにさせて頂く予定です。また、本医療連携協定を締結させて頂いた医療機関を、大学病院入り口に、各医療機関のパンフレットと所在を示す地図によってご紹介させて頂く予定となっております。今後さらに多くの先生方にご参加いただけるよう努力して参ります。先生方におかれましては、是非本協定にご参加をよろしく願ひ申し上げます。本医療連携につきまして、もしなにかご不明な点がありましたら、当院入退院サポートセンターまでご連絡いただければ幸いです。

今後とも、患者さんにとって、そして先生方にとってお役に立てる大学病院としての活動を高めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新・内科専門研修プログラムについて

本年度から、内科学会の総合内科専門医資格に取って代わる、新・内科専門研修プログラムが始まりました。旧制度との最大の違いは、学会に入るだけでなく、三重大学附属病院プログラムに申請、登録し、3年間の研修で経験する 160 症例を Web 登録する必要があることです。そして 29 症例(剖検 1、外科転科 2 例を含む)のサマリーを指導医と共に J-0sler というシステムに記載し、第三者の査読を受け、承認される必要があります。さらに JMECC という内科救急講習会の受講も必須です。これには石倉健、伊藤貴康先生がディレクターとして尽力してくれています。こうして 3 年間のプログラムを無事終了した専攻医に、内科専門医試験の受験資格が与えられ、合格すると晴れて新内科専門医と認定されます。今年は内科希望者が多く、三重大学の内科プログラムを専攻してくれた医師は 35 名でした。プログラムには複数の内科をローテート研修する基本



循環器内科
岡本 隆二

コースと専門内科をはじめから平行して研修するサブスペシャリティ重点コースがあり、サブスペを決めている先生の方が圧倒的に多かったです。内訳は、循環器 7 名、消化器 7 名、腎臓 2 名、脳神経 6 名、血液・腫瘍 2 名、呼吸器 5 名、リウマチ・膠原病 1 名、糖尿病・内分泌 3 名、基本 2 名です。

もう一つの新制度の特徴は、3年間の間に複数の病院を回る必要があります。三重大学病院で最低 6ヶ月間は勤務しないとイケません。この間にサブスペの面白さや、将来の大学院を見据えた領域への関心を広げて頂ければと思っております。他の領域も合わせると約 100 名が後期研修で三重県内に残って頂いており、最終的には毎年 100 名が三重大学病院に戻ってくることになり、その設備やスペースを、伊藤院長のリーダーシップの下、準備しております。近い将来、若手医師で溢れた三重大学病院の第一内科をお見せできるのではないかと、期待しております。これもひとえに、第一内科同門の先生方が、貴重な症例をご紹介頂くと同時に、医学生や初期研修医の先生に真摯に向き合い、時間を割いて、内科の面白さと重要性を指導して下さっている賜物と考えます。この場をお借りして御礼を申し上げると同時に、引き続きご支援の程、宜しく願ひ致します。



消化器内科
吉澤 尚彦

IgG4 関連疾患は、Hamano らによる自己免疫性膵炎における高 IgG4 血症の報告を契機に発見された疾患概念で、従来は無関係と考えられていた様々な臓器の炎症性変化を包括する新しい疾患です。その病変は膵臓、胆管、涙腺・唾液腺、腎臓、肺、後腹膜、大血管系など全身の様々な臓器に及びます。厚生労働省研究班を中心に各関連学会とともに診断基準が策定され、2015年に難病指定されたこともあり、疾患概念が認知されつつあります。

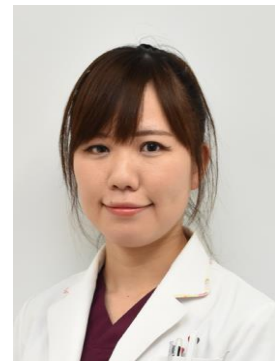
当院での自己免疫性膵炎の2015年時の検討では過去15年間で21例と比較的稀な疾患でしたが、最近1年間では月に1例のペースと増加してきております。

高 IgG4 血症は診断的価値が高く、当院での検討でも IgG4 陽性率 (≥135mg/dl) は95%で平均値433 mg/dlでした。ちなみに IgG の陽性率は57%にとどまりました。ただ IgG4 高値はアトピー性皮膚炎、天疱瘡、喘息など他疾患や一部の膵臓癌や胆管癌でも認められるため注意が必要です。

また病理所見では IgG4 陽性細胞形質細胞浸潤、リンパ球・形質細胞浸潤・線維化などを認めます。自己免疫性膵炎を疑う症例には当院では超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA) を行っておりますが、リンパ球・形質細胞浸潤を認めたのは61%、線維化所見は50%にとどまります。EUS-FNA は組織採取量が少ないため自己免疫性膵炎の確定診断に至らない例もありますが、膵臓癌などの悪性疾患の除外のためには必要と考えております。

当院での検討では初発症状は黄疸 (43%)、腹痛・背部痛 (24%)、検査値異常 (24%)、耐糖能異常 (9%) でしたが、いずれも膵癌でも起こりうる症状です。膵癌との鑑別が問題となる慢性膵炎を総称して腫瘍形成性膵炎という名称がありますが、現在ではその一部に自己免疫性膵炎が含まれていると考えられております。自己免疫性膵炎あるいは膵癌等疑う患者様がいらっしゃいましたらご紹介頂ければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

医師紹介



循環器内科
水谷 花菜

こんにちは。はじめまして、平成28年卒の水谷花菜と申します。津市に生まれ津市に育ち、三重大学に入学、大学病院で初期研修後に第一内科に入局し、今年の4月から循環器内科を専攻し引き続き大学病院で勉強させていただいています。27年まだ一度も津市からでずに生活してきております。初期研修は修了したものの循環器内科に関して右も左も分からない状態で、責任の重さを痛感しつつも日々新しい知識や技術が習得できることに喜びを感じています。至らぬ点多々ございますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

●おしらせ●

腎臓・水・電解質を究める研究会

日時：2018年9月12日(水) 19:00～

場所：三重大学外来棟5階ホール

梅檀の会

日時：2018年9月20日(木) 18:50～

場所：三重県総合文化センター 文化会館2階大会議室

● 第一内科外来担当がリニューアル されました。9月～

		月	火	水	木	金
総合	初診	土肥薫 小倉英	杉本匡史 村田智博	岡本隆二 石川英二	田辺正樹 杉本和史	荻原義人
	再診	岡本隆二	杉本匡史 村田智博	岡本隆二 石川英二	田辺正樹 杉本和史	
循環器	初診	土肥薫 栗田泰郎 石浦純子	森脇啓至 杉本匡史 佐藤徹	岡本隆二 藤田聡	田辺正樹 香川芳彦 福岡秀介 水谷花菜	荻原義人 石浦純子 福岡智之
	再診	伊藤正明 岡本隆二 栗田泰郎 藤本直紀 高崎亮宏 福岡智之 <small>ディバ以外</small>	土肥薫 杉浦英美喜 佐藤圭	岡本隆二	田辺正樹 香川芳彦	荻原義人 藤田聡 杉本匡史 森脇啓至 中谷仁
腎臓	初	伊藤貴康	村田智博	石川英二	片山鑑	平林陽介
	再	石川英二	平林陽介	溝口翔子		村田智博
消化器 肝臓	初	杉本和史 小倉英			杉本和史 小倉英	
	再	杉本和史 山本憲彦 小倉英		山本憲彦	杉本和史 小倉英	

● 第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/>

三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1. FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を御記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15分以内に折り返し FAX で診療予約の回答をさせていただきます。

2. 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。

病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来：059-231-5146

病棟：059-231-5101

F A X：059-231-5518

研究棟：059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。
本機関誌に関するご意見、ご質問は下記
メールアドレス、または当科 HP まで。
naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp



注)不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で御紹介いただく場合は、可能な限り火、木、金曜日の外来(担当：藤田、香川)に御紹介をよろしくお願い申し上げます。

ディバ以外(1,2,3週のみ)